

大通公園 西4丁目における取組と整備イメージ

(1) 西4丁目における主な取組

はじめに

- ・大通西4南地区の札幌圏都市計画再生特別地区を変更（令和4年）
- ・再開発事業の公共貢献の一環として、大通公園の魅力向上を実施し、西4丁目を先行整備予定

西4丁目の現状課題と対応の方向性

A課題：南北樹林帯において、ベンチを設置しているが、地表を這う樹木の根などが人を寄せ付けない荒れた林床イメージを生み出しているため、安全性・滞留性が低下している

対応：樹木の根系に配慮し、みどりを身近に感じられる憩い空間とする（空間計画・施設計画）

B課題：丁目の角部の植栽が繁茂し閉鎖的であり、周囲からの視認性が低い

C課題：丁目間にある街路樹により、視線方向に沿った抜けが確保されにくい

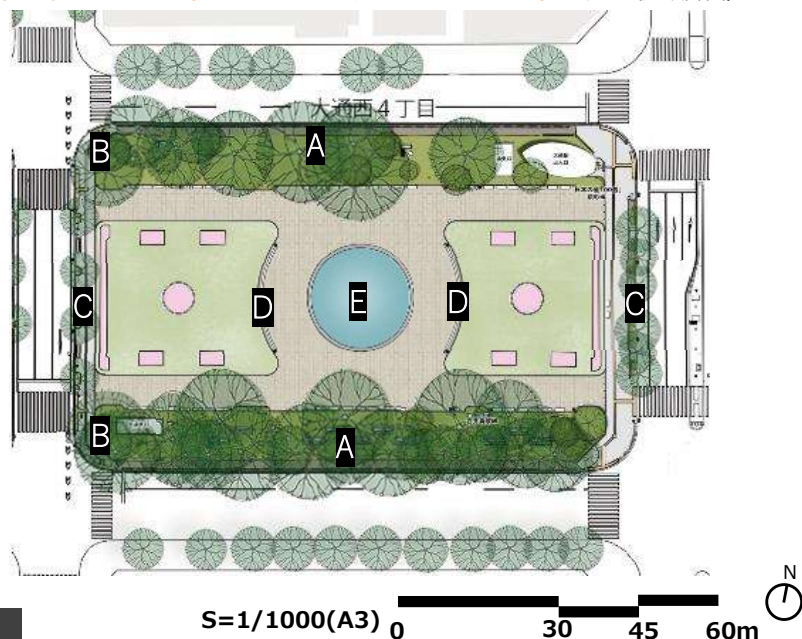
対応：丁目間で設えを合わせるほか、沿道からの視認性を向上させる（空間計画・植栽計画）

D課題：芝生と水景の間にあるベンチによって芝生と水景の利用が分断されている

E課題：水景施設の老朽化に加え、噴水としての鑑賞性が高い一方で親水性には欠けている

対応：可変性のある噴水とし、利用シーンに応じた使い方ができる空間とする（施設計画）

現況図



現況写真



A 樹林帯内部のベンチ周辺の状況

B 角部の植栽の状況

C 噴水施設の状況

※掲載されている計画図やパースは、計画段階のものであり今後の調査・検討で変更になる可能性があります。

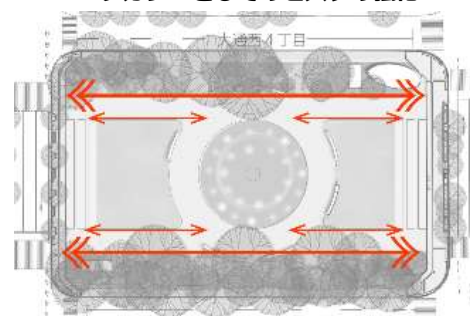
空間コンセプトについて

<凡例>
太字：議論のポイント

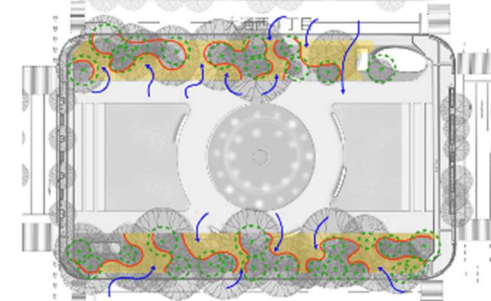
- ・12丁画に共通する再整備コンセプトである「ビスタの強化」、「豊かなみどりを守り、活かした憩い空間の創出」、「まちとつながる景観形成」、「季節を彩る花による街区の顔づくり」に加え、**西4丁目においては都心のオアシスとして、にぎわい形成の中心的役割が期待される水景施設のリニューアル**を行う。
- ・現状の円形型噴水による中心性の高い空間構成やそれを囲むベンチ等の滞留施設が生み出している**場の共有感・一体感を醸成する空間づくりの考え方を継承**。一方で、ベンチ等の立ち上がり部が芝生広場と水景エリアの利用を分断することがないよう、**広場中央部に設置する滞留施設の仕様や配置に十分配慮**する。

計画（案）

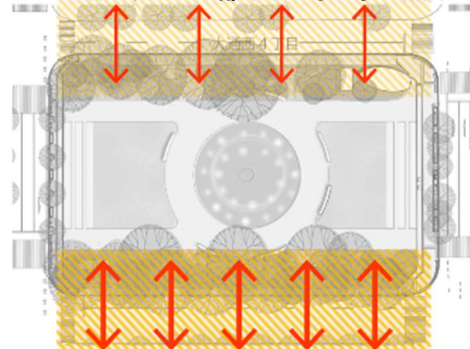
1. レガシーとしてのビスタの強化



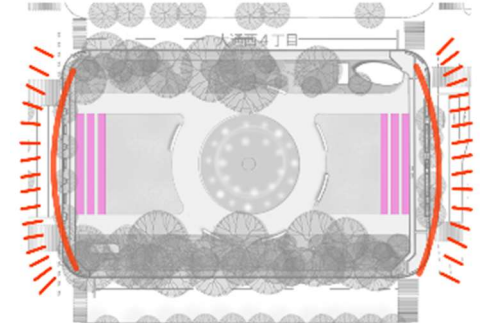
2. 豊かなみどりを守りながら、それらと関わることのできる居場所を重ねる



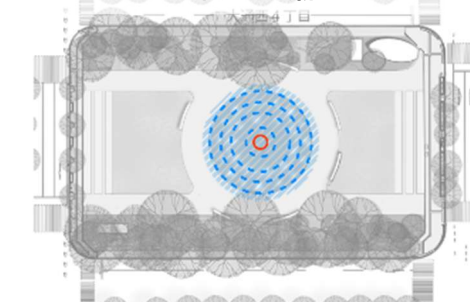
3. 沿道や交差点部とのつながりの創出



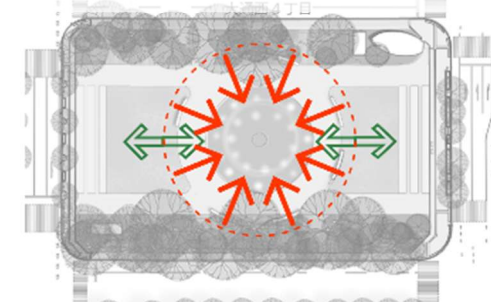
4. フラワーディスプレイによる顔づくり



5. 親水性、鑑賞性、可変性を兼ね備えた水景施設への更新



6. 場の共有感や一体感を生む中心性のある場づくり

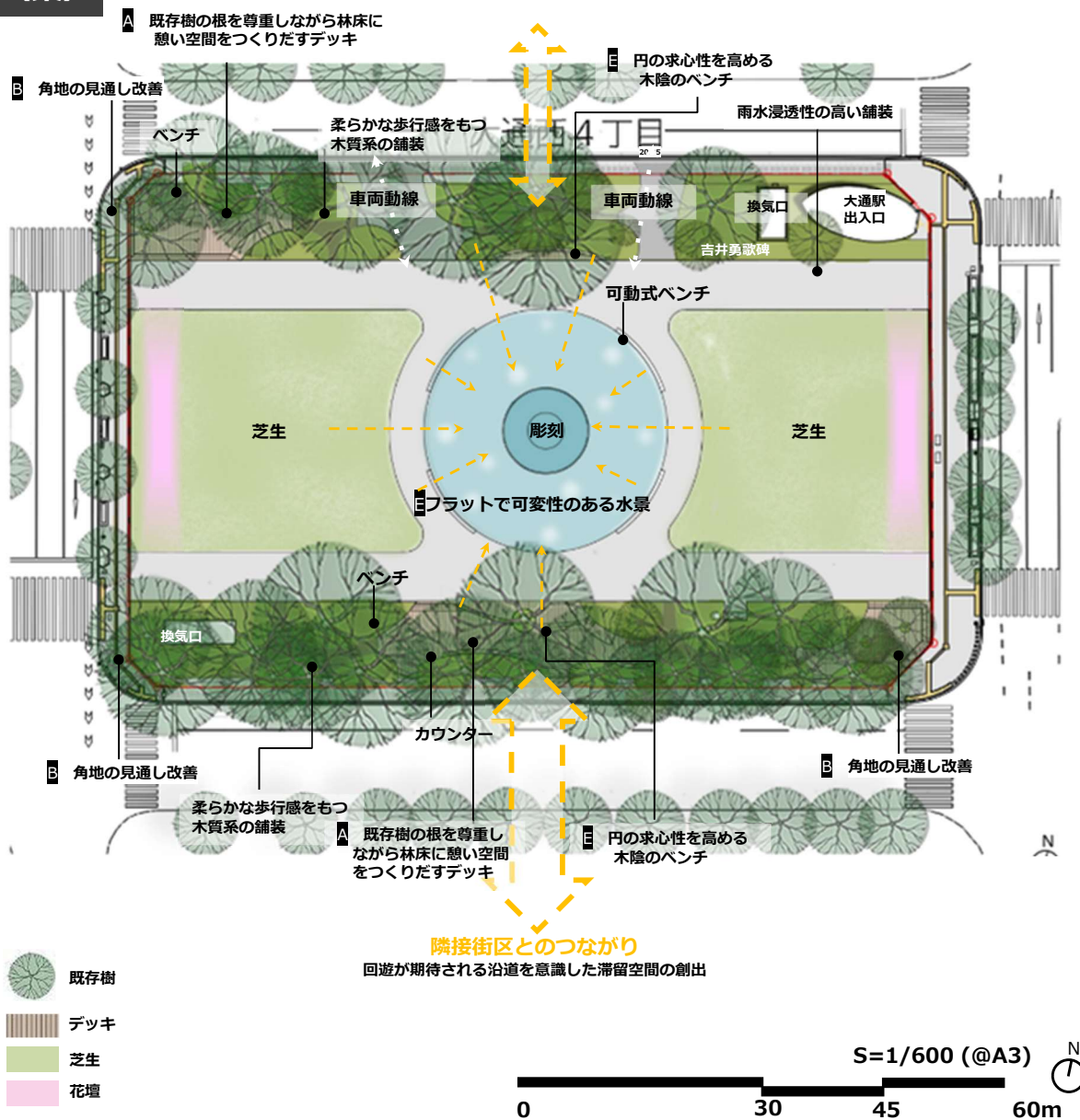


(2) 西4丁目における主な取組みと整備イメージ

多様な水の表情を創るフラットな水景を中心に据え、可変的で求心力をもった賑わいを創出する

計画(案)

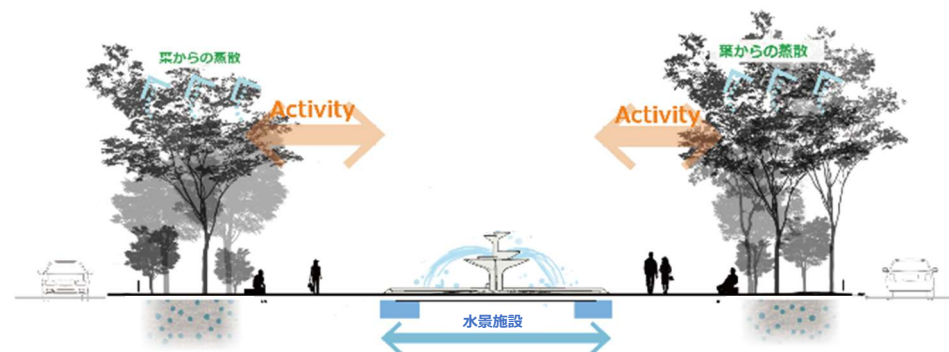
公園に面した街区とのつながり



機能イメージ

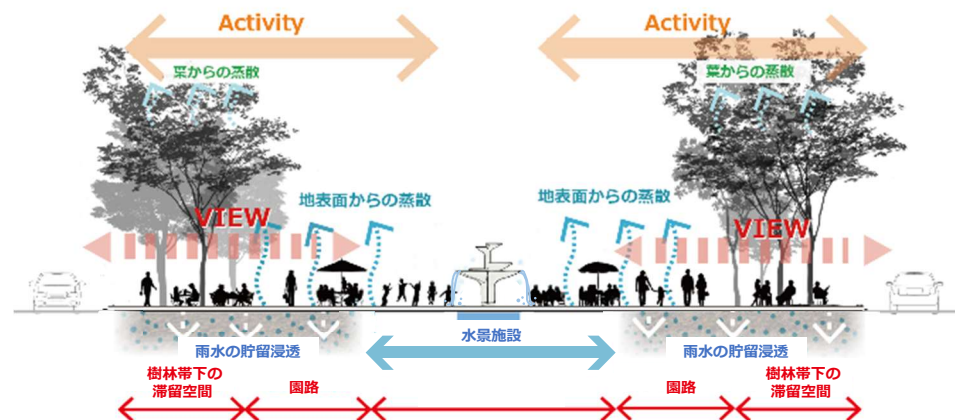
現況

水景と賑わいの空間が分断しており、親水性に欠ける。

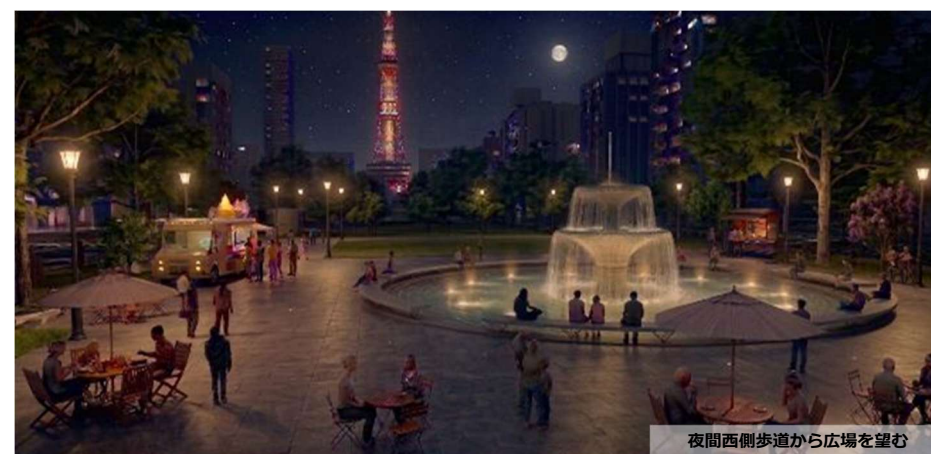
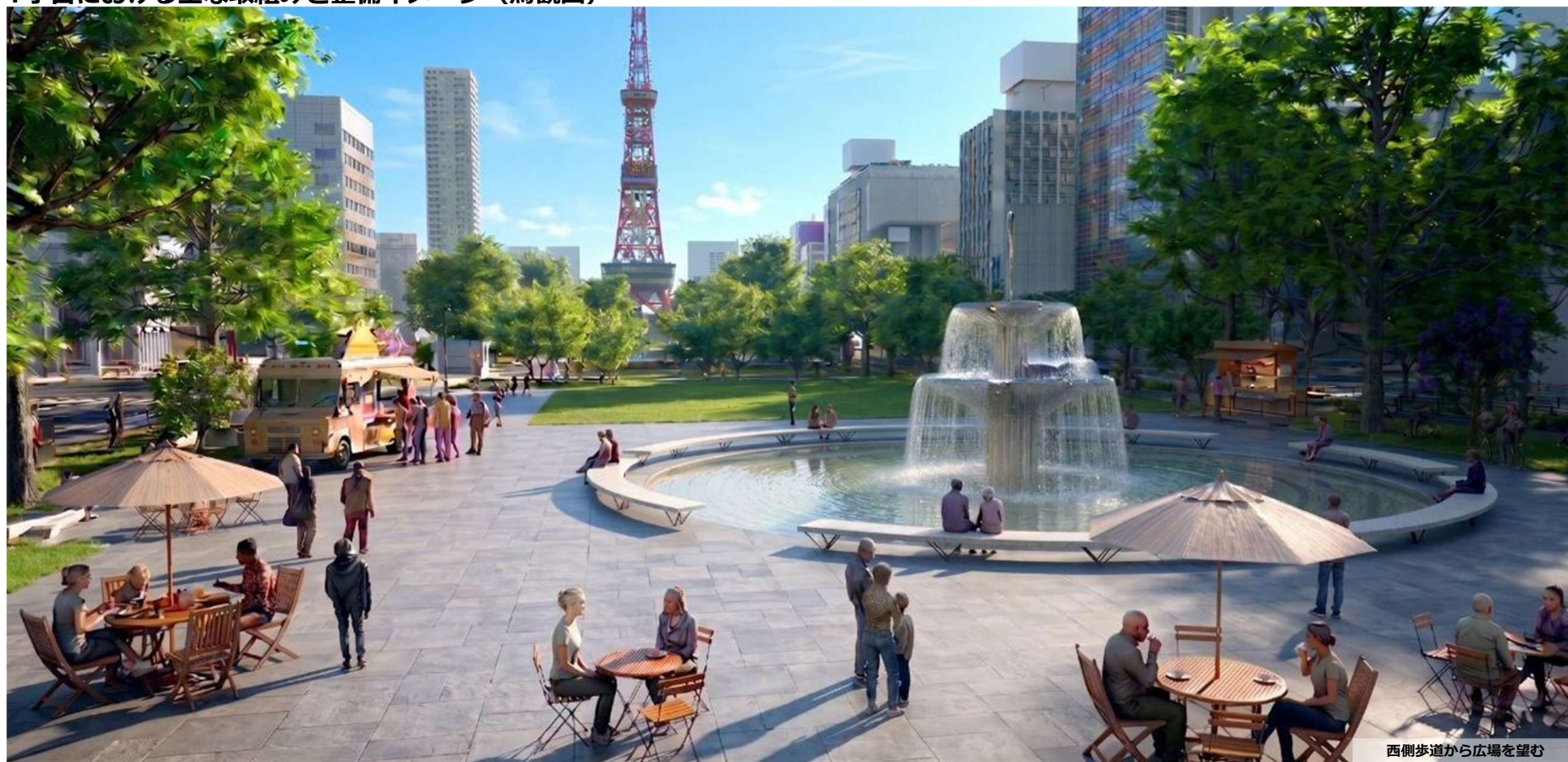


計画(案)

水景のほか透水性舗装により親水性が向上。沿道からの視認性の向上により、隣接街区とのつながりが生まれる。



(2) 西4丁目における主な取組みと整備イメージ（鳥観図）



(2) 西4丁目における主な取組みと整備イメージ（鳥観図・透視図）

